

今月の特集

秋といえば、やっぱり「紅葉」^{こうよう}

今年は9月になっても真夏日が続き、とても長い夏になりました。その分、秋が短くなると思うと、何か損をしたような気持ちにもなりますが、それは人それぞれでしょうか。

秋の楽しみといえば、その一つが紅葉です。最低気温が8度を下回る頃になると葉っぱが色づき始め、5度以下くらいの日が続くと紅葉がいっきに進みます。今回は、そんな葉の色の変化についてのお話です。

葉の中には、クロロフィルという光合成色素が含まれていて、葉っぱが緑色に見えるのはそのためです。秋になり日光が弱くなると光合成の働きも弱くなります。そして、光合成が低下するとクロロフィルは分解され減少していきます。

葉緑体の中には、カロチノイドという黄色の色素も含まれていて、クロロフィル同様、これも分解されていきます。しかし、カロチノイドは、クロロフィルよりも分解されるのが遅いため、その色がだんだん目立つようになります。これが、葉っぱが黄色くなる原因です。

葉が赤くなるのは、またこれとは別のアントシアニンという色素によるものです。アントシアニンは、葉の中の糖と酵素が反応してつくりだされると考えられています。赤だけでなく、紫や青の色素で、酸性だと赤っぽ

い色、アルカリ性だと青っぽい色になります。ちなみにリンゴやブドウの皮の色もアントシアニンの色です。

このように、木々の葉はカロチノイドやアントシアニンといった色素により、色鮮やかな赤や黄色に染まり、やがて落葉(らくよう)が始まります。その落葉の前に、樹木本体は葉っぱから養分を回収します。回収した養分は、冬の間蓄えられ、次の春に葉を出すために使われるのです。

落葉の様子は、葉の一生の終わりを見ているようで物寂しい気持ちにもなりますが、一枚一枚の葉が、次の春の葉っぱたちに命をつなげていると思うと、むしろ力強さを感じますね。

多摩エリアには、公園や河原などが数多くありますから、遠出をしなくても気軽に紅葉(黄葉)が楽しめます。命をつなぐ色とりどりの葉っぱから、元気をもらいましょう。

ベスト個別指導塾のホームページ

<https://www.bestkobetsu.com/>

